

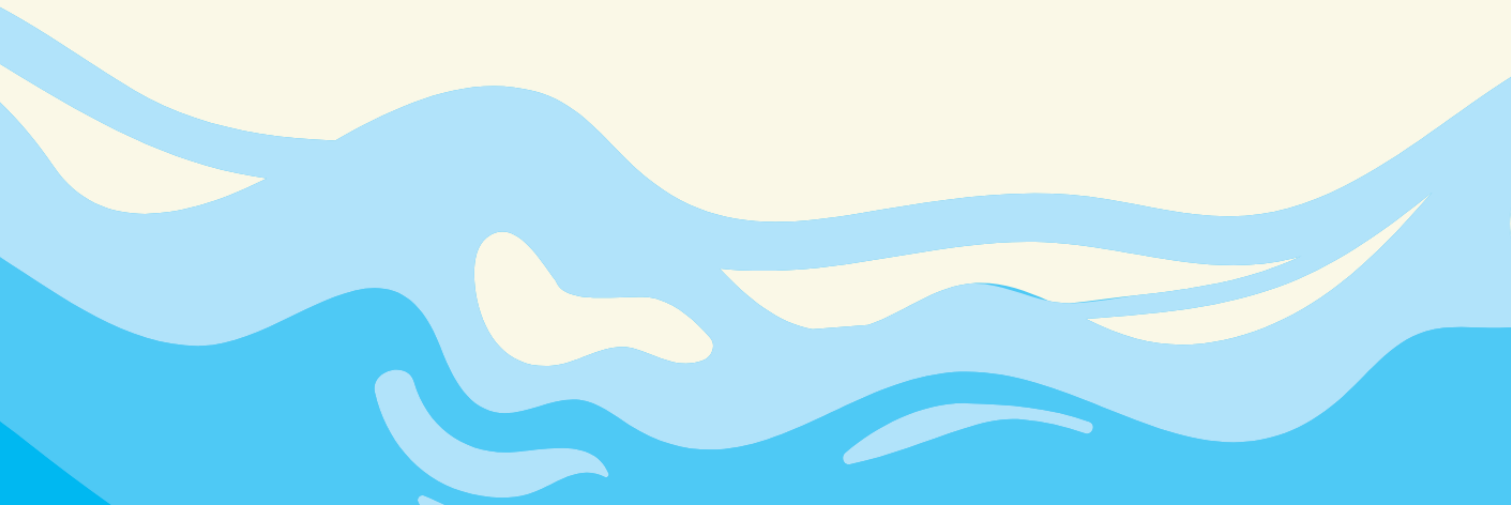


全国大会 参加報告②

--- 2026 Summer ---



兵庫県サッカー協会 審判委員会



令和 8 年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会（1・2 回戦）参加報告書

兵庫県 2 級審判員 脇谷咲花

-目次-

1. はじめに
2. 大会要項
3. 事前研修内容
4. 担当試合の振り返り
5. まとめ



1. はじめに

7月27日に開幕いたしました、令和8年度全国高等学校総合体育大会サッカー競技大会の参加を報告させていただきます。関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様に日頃からのご指導、ご鞭撻を感謝申し上げますとともに、北海道の皆様、運営していただいた全ての大会関係者の皆様に感謝申し上げます。

2. 大会要項

日程：2026年7月27日（月）～7月28日（火）＊1.2回戦

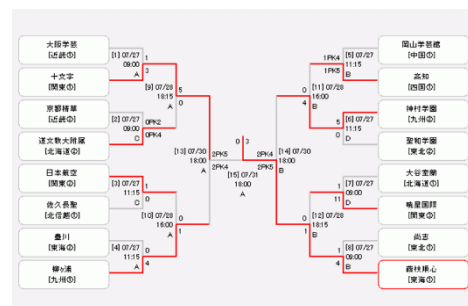
会場：リアルター夢りんご東光スポーツ公園球技場 A（旭川市）

リアルター夢りんご東光スポーツ公園球技場 B（旭川市）

忠和公園多目的広場 A（旭川市）

忠和公園多目的広場 B（旭川市）

出場校：全16チーム（各地域代表および開催県枠）



3. 事前研修

●大会の成功とは ●新ルールについて

7月8日に行われた zoom 事前研修では、大会要項の確認や新ルールについての確認を行いました。競技規則の変更点について理解するだけでなく、競技規則が改正された意図について理解し、適切に判断することの重要性を再確認しました。

～キーワード～

- 選手がプレーしやすい環境をつくる
- 競技規則の改正部分を審判員全員で共通認識を持つ
- ルールを適応することが目的ではなく、試合を支えるために適切に運用する

4. 担当試合の振り返り

< 1 回戦 >

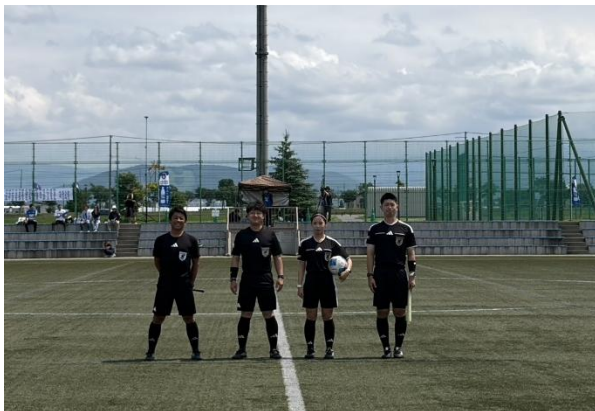
岡山学芸館高校 1－1（PK 4－5）高知高校

主審：脇谷咲花 副審：田口平蔵氏、吉原翔氏 第4審：三村仁氏

岡山学芸館高校が先制し、高知高校が後半に追いつく展開となり、その後PK戦までもつれ込む白熱した試合となりました。互いに勝利を目指して最後まで強度の高いプレーが続く中で、主審として集中力を切らさず、試合をコントロールすることを意識しました。今回の試合では、事前研修から取り組んできた新ルールへの適応を一つのテーマとして臨みました。実際の試合の中でも、新ルールが関係する場面に対して迷うことなく、自信を持って判定することができたと感じています。

また、副審、第4の審判員の方々とコミュニケーションを取りながら、一体感を持って試合運営ができたことも良かった点です。全国大会という舞台で、初めて一緒に審判を担当する方々と一つのチームとして試合に臨む中で、最後まで安心して主審を務めることができたのは、副審、第4の審判員の方々の支えがあったからこそだと感じています。

一方で、試合後にインストラクターの方から、試合中の細かな動きやフリーキック時のセレモニーなど、より良い試合運営につなげるための改善点を教えていただきました。また、選手のソックスなどの用具についても、試合前だけでなく試合中も含めて徹底して確認する必要がある、プレーそのものだけでなく、ピッチ上の細かな部分にまで目を配ることの大切さを学びました。



< 2 回戦 >

十文字高校 5－0 道文教大付属

主審：脇谷咲花 副審：竹内楓氏、引田理子氏 第4審：鈴木陽和

2回戦目も、前日に引き続き主審の割当てをいただきました。試合は5-0と点差が開く展開となりましたが、スコア以上に球際の競り合いや攻守の切り替えが激しく、強度の高い試合でした。その中でも、試合を通して判定基準を一定に保つことを意識し、自信を持って判定することができ、インストラクターからも判定基準が一定していたことや、最後までよく走っていたことを評価していただき、今後も継続していきたいと感じました。

一方で、中盤でのポジショニングや、選手のプレーするスペースを確保するための動きについては、改善すべき点があると実感し、またボールとの距離だけでなく、次の展開を予測しながらより効果的なポジションを取ることで、プレーを妨げることなく、より良い角度から判定できるよう改善していきたいと思います。

また、2回戦でも審判団で一体感を持って試合運営を行うことができ、試合前から積極的にコミュニケーションを取り、お互いに良い関係を築いたことで、リラックスした状態で試合に臨むことができました。全国大会という環境の中でも、審判団として協力しながら一つの試合をつくることの大切さを改めて感じる試合となりました。



5.まとめ

全国大会への審判派遣を通して、選手たちが一試合一試合に懸ける思いや頑張りを間近で感じ、その姿を審判員として支えることができたことに、大きなやりがいを感じました。同時に、全力でプレーする選手たちの姿から、私自身も勇気をもらい、改めてサッカーに関わることの喜びを実感する二日間となりました。また、今回の大会では、一緒に審判団を組んだ方の存在にも何度も支えていただきました。日々の悩みや試合に関してなどに対して励ましの言葉をいただき、精神的にも支えられ、二日間の主審を最後までやり切

ることができました。自分一人で試合に向き合っているのではなく、周りには支えてくださる多くの仲間がいることを強く実感しました。そして、大会が成り立っているのは、選手やチームだけでなく、高体連の方々をはじめとする大会運営の皆様など、多くの方々の支えがあるからこそだと改めて感じました。それぞれが自分の役割を果たし、一つの大会、一つの試合をつくり上げていることへの感謝を忘れず、今後も審判活動に取り組んでいきたいと思います。

今回の全国大会で得た経験や学び、そして周囲の方々からいただいた言葉を大切に、自分自身の課題と向き合いながら、さらに成長できるよう努力していきます。このような貴重な機会をいただき、支えてくださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、今回派遣を承認してくださった関西サッカー協会、兵庫県サッカー協会の皆様に改めて感謝申し上げます。ありがとうございました。これからもよろしくお願いいたします。

